

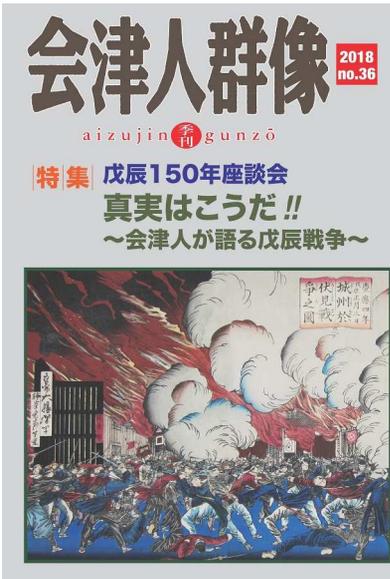
小栗上野介情報69

ホームページHttp://tozenji.cside.com/ Eメール: tozenji@clock.ocn.ne.jp



2018(平成30)年2月
発行:東善寺 住職 村上泰賢
群馬県高崎市倉淵町権田169
〒370-3401
Tel・fax:027-378-2230
〒振替0120-1-406206東善寺

『会津人群像』36号に 村上泰賢



「歴史を誤らせる 勝海舟神話・咸臨丸神話 —隠された遣米使節の業績—」を掲載しました。

主な内容

◇歴史春秋社 1800円+税 東善寺でも販売します。

歴史には継続性がある、明治以後に日本がいきなり近代化できたわけのものではなく、背景に260年間戦争をしなかった江戸時代の平和が蓄積した文化・教育が生み出した国民の民度の高さがあった。そのことに目を向けず、あたかも明治以後日本がいつぱんに近代化したと突然変異のように教え、

その反動で明治以前の江戸時代を旧弊頑迷な時代とする教育が明治以来行われてきた。だから、いたずらに「明治維新150年」などと美化する記念行事には注意しなければならない。

「勝海舟神話」「咸臨丸神話」は誇張脚色された勝海舟をヒーローとして成立させ、結果として幕末における日本人のまっとうな近代化の努力を覆い隠し、明治維新美化の風潮に貢献して歴史を誤らせている。

◇日本を救った横須賀造船所—東郷元帥が小栗上野介の遺族に謝意・「江戸城無血開城」は勝海舟神話・

▼遣米使節がワシントン海軍造船所見学



江戸を救ったというホラ話と、真に日本を救ったのは小栗上野介が建設を進めた横須賀造船所

◇対馬事件の通説の誤り—「英艦が行って露艦が退去」説は誤り・勝海舟の介入は自ら作ったホラ話=勝海舟神話

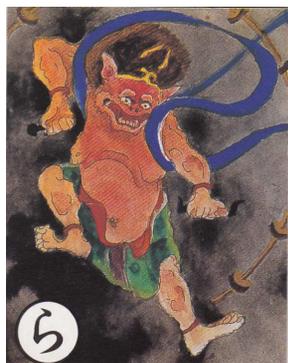
◇遣米使節の業績を隠した咸臨丸神話—サンフランシスコを練習航海で往復しただけの咸臨丸・「木村喜毅が副使」説は誤り・戦前の修身教科書が作った咸臨丸神話と勝海舟神話は今も続いている

◇中学・高校の歴史教科書や副読本で「遣米使節」の説明から遣米使節が乗らなかった「咸臨丸の絵」をはずし、「遣米使節ワシントン海軍造船所見学写真」を載せるべき。この見学が横須賀造船所建設の契機となった貴重な写真である。

謎の札 上毛かるたの「ら」

なぜ、「い」と「ら」だけが赤い読み札か—
なぜ、いつも一番上に置かれるのか—

戦後、荒廃した群馬の復興を願った浦野匡彦氏が、子供たちが郷土の自然、歴史、人物、特産、産業を知るのが大事としてカルタを考えて公募し、小栗上野介も入れて原案ができた。



ら 雷と空風
義理人情

当時の規則でGHQ(占領軍司令部)に届けると、軍国主義の復活を警戒してか「小栗は横須賀の軍港を造ったから、軍国主義者」と許可が出なかった。戦前は明治政府によって逆賊とされ、戦後は軍国主義者のレッテルを貼られたことになる。

浦野は、小栗の他に高山彦九郎、中島知久平(中島飛行機創業者)ら何人かの認められなかった人々をいずれ時が来たら復活する、という気持ちを含め、一枚の札を作った。それが「ら」=「雷とからつ風 義理人情」…上州人の気質と風土を読み込んでいるのみならず、いずれ小栗上野介を復活させる!という意味から、箱のなかで絵札、読み札共に常に一番上に置くことにし、そのために読み札は「い」とともにいまも赤く造られている。

参考図書:西片恭子『上毛かるたのこころ』(中央公論事業出版・2002年)

予告 小栗上野介没後150年 小栗まつり

「明治維新150年」は
「小栗上野介、罪なくして西軍に殺されて150年」

・期日:5月27日(日)(=慶応四年閏四月六日命日)

・150年記念式典・記念講演・墓前祭・昼市など

・会場:倉淵小学校と東善寺

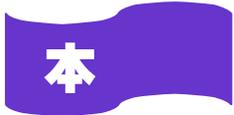
記念講演 講師

なるみ ふう

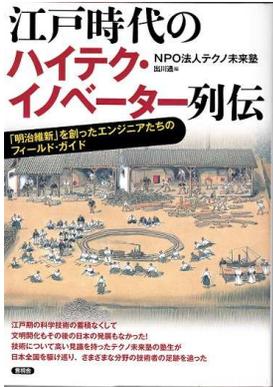
歴史作家・技術者の 鳴海 風さん

歴史文学賞『円周率を計算した男』、小野友五郎と小栗上野介を描いた『怒涛逆巻くも』、関孝和を描いた『算聖伝』、『江戸の天才数学者』など。関孝和数学研究所客員研究員





◆『江戸時代の
ハイテク・イノベーター列伝』



NPO 法人テクノ未来塾編 言視舎
1600円+税

日本は明治以後に近代化したと教えてきた明治以来の歴史観を見直し、江戸時代に日本各地で近代科学・近代工業への挑戦と努力を行ってきた土木・数学・暦・地理・生物・医学・物理・機械・化学・製鉄の技術者たちの物語。関孝和、伊能忠敬、平賀源内、杉田玄白、青木昆陽、田中久重、佐野常民、江川英龍、大島高任などと並んで、技術者とは言えない

が行政面における小栗上野介の先進的な業績も造船・大砲分野が、早稲田大学浅川基男名誉教授によって紹介されています。

◆『東郷』東郷神社・東郷会発行

1・2合併月号で特別寄稿「小栗上野介と東郷元帥」

「日本海海戦の勝利は、小栗さんの作った横須賀造船所のおかげ」と遺族に礼を言ったエピソードが丁寧に紹介されています。

◆『東北を置き去りにした明治維新』星亮一・安藤優一郎ほか 文芸社 1500円

幕府側が敗れた原因は／奥羽越列藩同盟と会津藩の敗北／など
安積国造神社安藤智重宮司が対談の中で小栗上野介の業績と横須賀造船所の意義を語っています。



1月23日 NHK Eテレ 「知恵泉」で

小栗上野介の業績を放映
明治維新の不都合な真実

■歴史は勝者によって作られる。



明治政府が始めた学校教育で、横須賀造船所建設や日本近代化に尽くした幕府や小栗上野介の業績を学校で教えてこなかったのは、明治政府にとって「不都合な真実」

があったから。「不都合な真実」とは――

- ・昔の中身で出ています―日本の近代化は江戸時代260年間の平和から生まれた教育文化の蓄積、お茶屋の娘が本を読んでいると外国人が驚いた国民の高い民度があったからこそ、急速な開国や近代化に欧米の植民地にならず対応できた。
- ・表に出せない明治政府軍の所業―日本近代化のための総合工場としての横須賀造船所建設を進めた小栗上野介を不当に殺害した。明治政府最大の汚点と言われる、不都合な真実。

小栗上野介夫妻の病気を治した
あさだそうはく
幕末・明治の名医 浅田宗伯

◇信濃毎日新聞に連載の「篤ちゃん先生の生薬ばなし」29回めで、「小栗上野介の病気を治した浅田宗伯」の投薬治療が掲載されました。

◇筆者は漢方を研究している津田篤太郎医師（聖路加病院）で、宗伯が著した治療歴の書『橘窓書影』を基に、漢方薬、病名、治療措置などを解説しています。この記事は共同通信社からの配信で、33回目には道子夫人の治療・回復も紹介されています。他の新聞では「新潟日報」（10月20日）、「埼玉新聞」（11月15日・道子夫人）でも掲載されました。

◇史料を検討すると、小栗忠順は文久二年（36歳）十二月に二度めの勘定奉行に任ぜられて間もなく発病し、翌文久三年（37歳）春にかけての病気のようにです。

◇「高熱を発しうわごとを言い、飲食物はのどを通らず、何やら苦しそうに手足をバタバタさせ」、それまで出入りの医者が手を施せない状態となって、浅田宗伯が呼ばれた。

◇宗伯は「全身に細菌が増殖する敗血症が悪化し、心臓の働きが弱り血圧は低下、意識も混濁している状態」と診て、黄連阿膠湯という漢方薬を処方し、生薬に卵の黄身を加えて服用させたところ、ようやく安眠できるようになって、次第に回復に向かい、二月十七日の小栗家家計簿には「床上げ内祝」の記事が見られます。

◇道子夫人は、30歳前後に腰痛や下血があり、皮膚はガサガサ、手足にアカギレ、爪はもろく、脛にはむくみという症状になりました。夫の病気を治した宗伯を信頼し相談すると、宗伯は六君子湯に鉄砂丸を兼用して一年余りで良くなり、さらに体調が回復し、さらにそのおかげで道子夫人は身ごもりました。ご存知のとおり道子夫人は権田村から会津に逃れ、会津戊辰戦争のさなかに女兒を出産します。小栗家の子孫が絶えなかったのは、会津へ護衛した権田の村人ばかりでなく、名医浅田宗伯のおかげもあつたといえましょう。

◇宗伯は元治元年（1865）にはフランス公使ロッシュの難症（落馬の後遺症で腰背の激痛）を劇的に治して、名声が国の内外に響き渡り、ナポレオン3世から謝礼の品が送られています。さらに明治9年（1876）に明治天皇の侍医となり、嘉仁親王（後の大正天皇）が生後に全身の発疹と痙攣、嘔吐の症状を発症して西洋医たちがサジを投げた時、漢方医宗伯がその生命の危機を救った事で知られています。

◇有名な「浅田飴」は宗伯が書生に教えた薬飴を、書生の息子堀内伊太郎が水飴状から次第にドロップ形に改良し、独特の缶ケースを考えて有名になりました。



▲ 浅田宗伯



橘窓書影

◇幕末の歴史・小栗上野介ファンの方へ 会員になってください――東善寺「たつなみ会」

倉渕町の小栗上野介顕彰会ではさまざまな顕彰活動をしています。倉渕地区の人口減で顕彰会員が減っております。東善寺の「たつなみ会」会員には顕彰会機関誌『たつなみ』を発行のつど顕彰会から購入してお送りし、誌代が顕彰会の活動資金に役立っています。また東善寺発行の「小栗上野介情報」や「東善寺だより」などで、小栗上野介・幕末関連の最新情報をお送りします。



□お申し込みは:東善寺へメールまたは電話、ハガキで

□たつなみ会会費 年1800円

□ご送金は:郵便振替「東京00120-1-406206東善寺」へ